

西部支部巡検会報告：  
浜名湖西方地域(三ヶ日地方)の秩父帯を訪ねて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 磯部, 悟子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00024797">https://doi.org/10.14945/00024797</a>

# 西部支部巡検会報告

## —浜名湖西方地域 (三ヶ日地方) の秩父帯を訪ねて—

磯 部 悟 子

### 1. はじめに

日本列島は、弓なりになっている。その形は、糸魚川-静岡構造線 (フォッサマグナ) を境として、北北東-南南西~南東の方向にのびる東北日本弧と、東北東-西南西~東西の方向にのびる西南日本弧 (以下、西南日本) となっている。さらに、西南日本には、日本で最も大きな断層である、中央構造線が走っている。この断層を境にして、西南日本は日本海側を内帯、太平洋側を外帯と呼ぶ。今回の巡検会は浜名湖西方地域 (三ヶ日地方) であり、西南日本外帯に位置している。

西南日本外帯は、中央構造線側から変成岩で構成される三波川帯、堆積岩で構成される秩父帯、同じく堆積岩で構成される四万十帯に区分される。これらは、1つ1つの独立したものではなく、日本列島の形成を説明する上で、密接な関わりを持っている。最近、騒がれているプレートテクトニクス論で論じると大いに興味がそそられる。プレートが生まれ、沈み込む間のプレートの歴史をこの西南日本外帯は静かに物語っているのかもしれない。

浜名湖西方地域 (三ヶ日地方) では、秩父帯の地層が分布している。チャート・珪質泥岩・碎屑岩類を主体とし、緑色岩類を伴う。また、この地域周辺には、石灰岩の層がレンズ状に分布していることがわかっている。

### 2. 巡検会

西部支部では、12月23日、遠州の特有のからっ風が吹いている晴天の中、巡検会を行われた。図1は、講師の丹羽耕輔氏の説明を受けている集合写真である。

(1) 見学地点1, 浜名湖西方: 主に、泥岩と砂岩の互層からなる。互層ではあるが、どちらかという、泥岩が主であり、泥岩の中に砂岩が含まれているような感じである。砂岩が固結すると、泥岩よりも固くなるため、砂岩がちぎられて点在しているかのように見えた (図2)。小さな断層も見られた。参加者は日ごろの疑問を丹羽氏に質問し、丹羽氏は質問に親切に答え、寒さに負けない熱心な巡検会が行われた (図3)。あるときは、対岸が見える地点で、走向から見てこの地層が向こう岸まで続いているかどうか



図1. 集合写真.

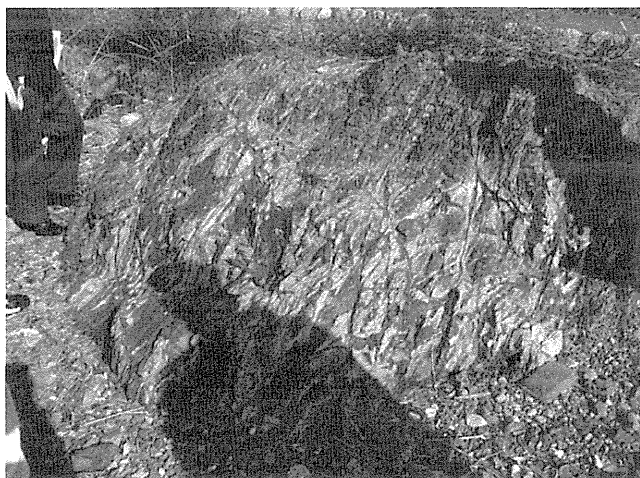


図2. 見学地点1.



図3. 見学地点1.



図4. 見学地点1.

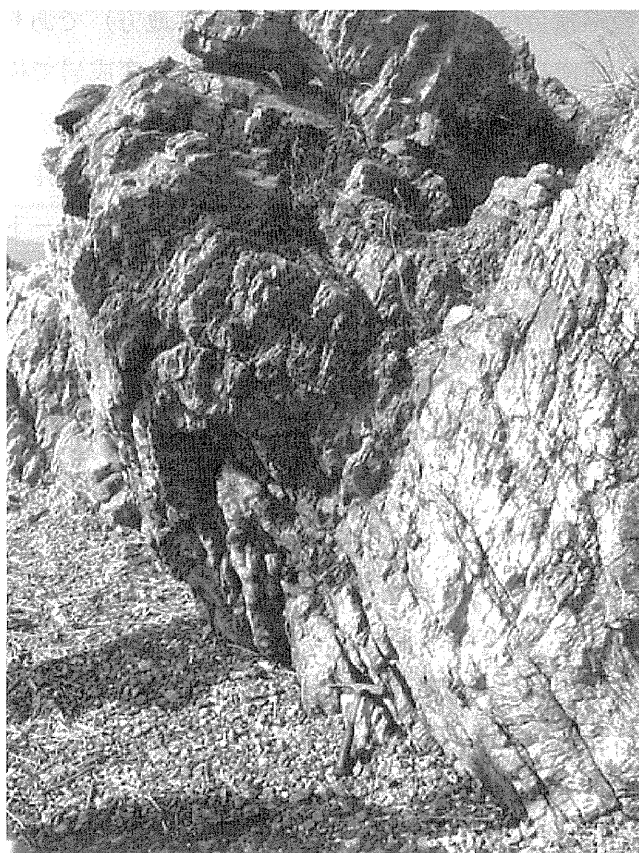


図5. 見学地点1.

という話し合いも行われた(図4)。単調な堆積岩の露頭が続いていたが、奥に進むとチャートが露出している地点があり、今までとは違った雰囲気を出していた。新生代には見られない、変わった褶曲が見られた(図5)。秩父帯では微褶曲が多く見られ、その微褶曲を追っていくと、さらに大きな褶曲を形成しているということだ。風化はしているものの、層状になっているのははっきりと確認できた。

(2) 見学地点2, 中学校そば神宮寺川沿いの露頭: 河川の浸食作用による新鮮な岩からなる露頭である。見学地点1と同じ泥岩と砂岩の互層からなる(図6)。ここでも褶曲が見られた。この褶曲は、遠くから見ることで、全体の様子を想像することができた(図7)。この付近では石灰岩の層があり、裸山になった採石場が見られた(図8)。

(3) 見学地点3, 竜ヶ岩洞: 石灰岩の層に長年雨水などによる侵食作用によってできた鍾乳洞, 竜ヶ岩洞を訪れた。ここでは、最近、25年前に洞口が狭くて、見学に適さないため埋めてしまった洞窟



図6. 見学地点2.



図7. 見学地点2.



図8. 見学地点2.



図9. 見学地点3.

2つを「足水+天然冷風浴場」(2007年4月28日オープン)として利用するために掘り起こしている工事をしていた。洞窟の入口には、石灰岩の上に堆積し固結した土砂が露出しており、そこに巻貝の化石が保存されているということである。許可を得て、この工事現場に入れることになった。簡単なつくりの階段やはしご(下るときは非常に怖い)を降りると、その巻貝は、ちょうど土砂の堆積岩にはさまった形で保存されていた(図9)。もう少し、この巻貝の化石が写真よりも出ていたら、多分工事で壊されていただろう。詳細はわからないが、石灰岩の堆積時代よりは新しい年代であることは間違いないだろう。小さくかわいらしかった。ここからはよく見えないが、奥には暗く、狭い洞窟が広がっているであろう。

工事現場を離れた後、石灰岩と緑色岩が共に露出する場所に行き、皆でいろいろな解釈で石灰岩の成因について、しばし議論することになった。

### 3. おわりに

今回の巡検会は東部から参加された方もあり、寒い中であるが熱心な講義のおかげでとても楽しめた。久々のフィールドワークであり、ハンマーを持って山へ行かなくなった!!